

国際化と日本経済の課題

一橋大学経済研究所・RIETI

深尾京司

今日の報告の構成と配布資料

報告の構成

1. グローバル化とは何か
2. 直接投資と「空洞化」
3. 国際貿易と生産要素市場

配布資料

1. 深尾京司・権赫旭「日本の生産性と経済成長 - 産業レベル・企業レベルデータによる実証分析 -」、ESRI Discussion Paper Series No.66、内閣府経済社会総合研究所、2003年10月。
2. Fukao, Kyoji and Yukako Murakami (2003) “Do Foreign Firms Bring Greater Total Factor Productivity to Japan?” Paper prepared for the Conference, *Rapid Economic Growth and Technology Transfers*, October 17-18, 2003, Groningen.
3. 深尾京司・天野倫文「対日直接投資と日本経済」、日本経済新聞社、近刊、の第2章、第7章。

その他の参考文献

4. Ito, Keiko and Kyoji Fukao (2003) “Physical and Human Capital Deepening and New Trade Patterns in Japan,* NBER Working Paper Series, #10209.

1. グローバル化とは何か

グローバル化 その1: 直接投資を通じて、技術と資本が簡単に国境を越えて移動するようになった。

- 一部の中・低所得国による追い上げ
- 世界的な規模での立地競争の時代に突入

グローバル化 その2： 中国、インド、東欧等、中・低所得国が国際市場に対して門戸を開放した

- 単純労働集約財が安価に大量供給されるようになった。
- 先進国において生産労働者の賃金が停滞、単純労働集約産業の衰退
- 先端的な資本財・消費財・素材に対する需要が急速に拡大する。

2. 直接投資と「空洞化」

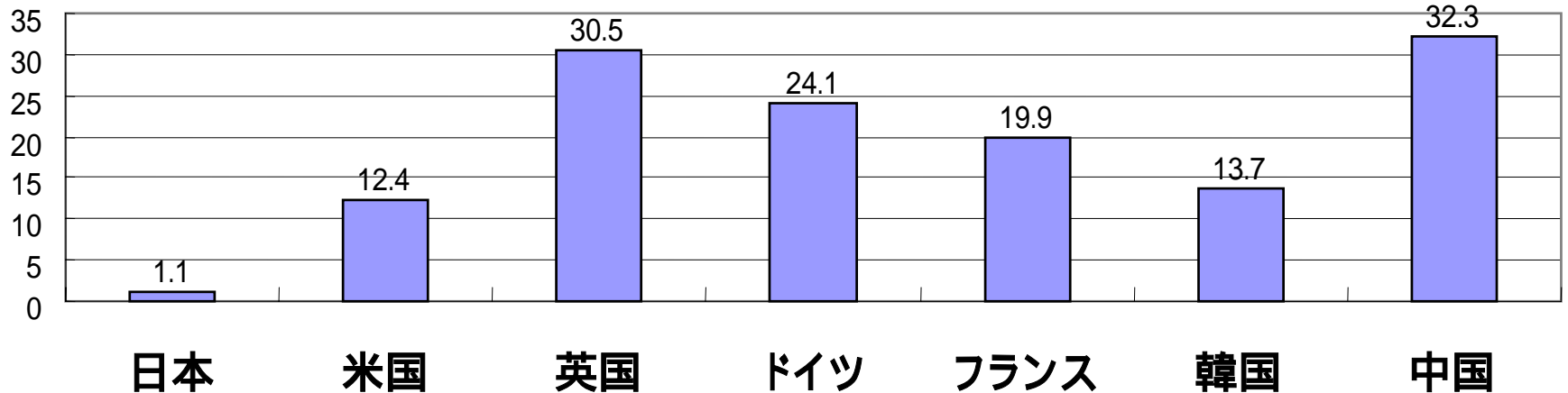
2. 直接投資と「空洞化」

- 直接投資は単なる資本の国際移動ではなく、経営資源(技術知識、マーケティング・ノウハウ、経営能力等)の移動を伴う。
- グローバル化、IT化: 直接投資により資本・経営資源(技術知識・経営能力等)が簡単に国境を越えて移動するようになった。
- 1980年代まで: 高い貯蓄率によって資本を蓄積し、研究開発等によって自国企業が経営資源を蓄積すれば、国民は豊かになることができた。
- 今日: 日本国民の豊かさは、日本企業を含めた世界の企業をいかに日本に誘致できるかにかかっている。
- ……世界経済が地域間の企業誘致競争へシフト
- 対外直接投資が対内直接投資を大幅に上回る現象は、グローバルな企業誘致競争において、日本が負けつつあることを意味する。

他国と比べて日本は対内直接投資 が極めて少ない

- 対GDP比は米国の11分の1、ドイツの22分の1
- 中国や韓国等と比較しても格段に少ない

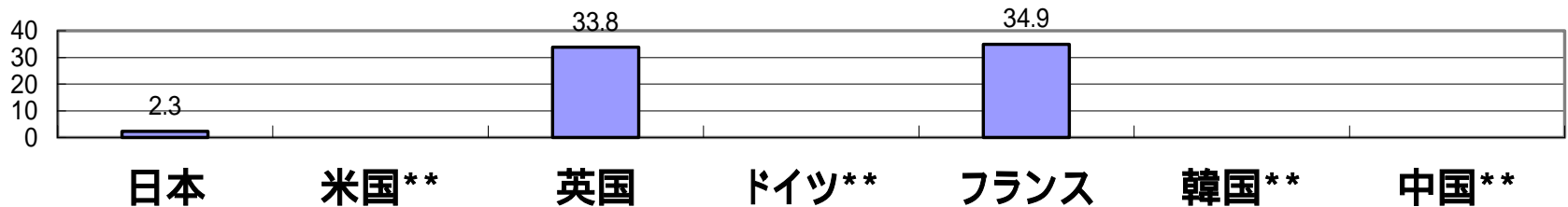
対内直接投資累積額 / GDP 2000年 %



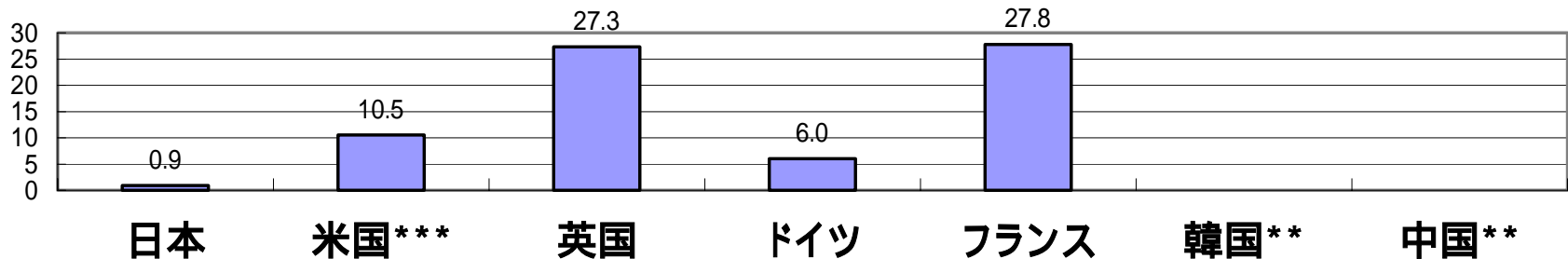
資料: UNCTAD *World Investment Report 2002*,

他の諸国では外資系企業が雇用、設備投資に重要な貢献をしている

製造業総固定資本形成に占める外資系企業のシェア 1998年 %



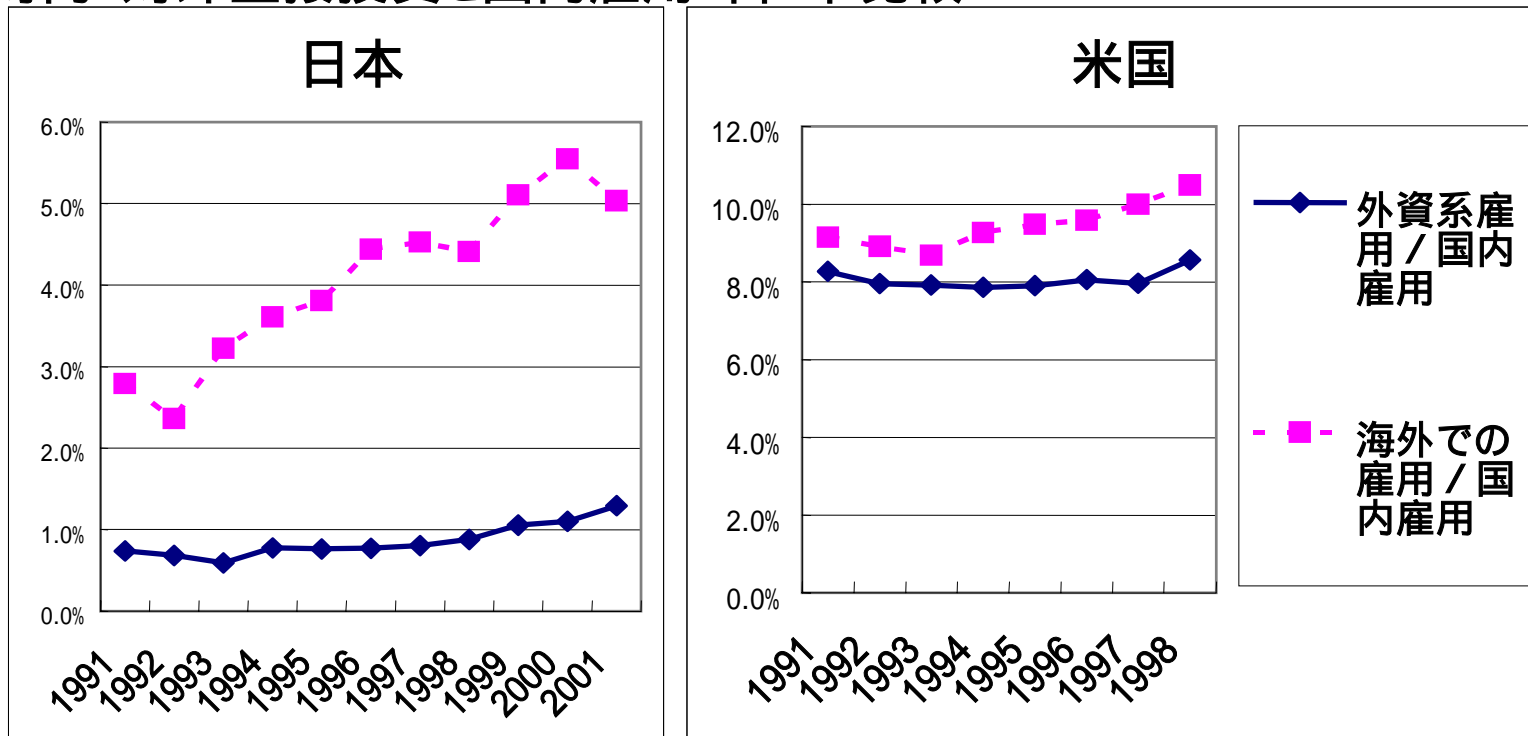
製造業雇用における外資系企業のシェア 1998年 %



資料: OECD *Measuring Globalization 2001* .

対日直接投資が少ないため対外直接投資による空洞化を相殺できない（雇用）

対内・対外直接投資と国内雇用：日・米比較



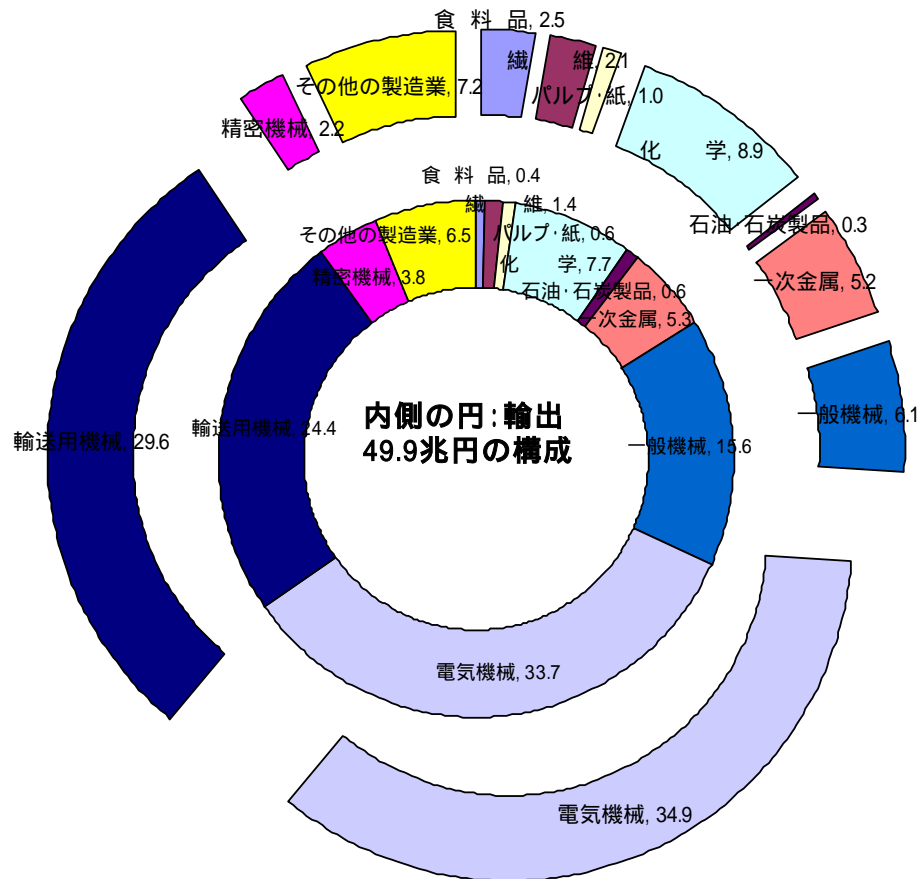
日本に関する外資系企業の雇用と海外での雇用データの出所は表1.1と同じである。
 米国の外資系雇用および海外での雇用はOECD Measuring Globalisation 2001より得た。
 日本全体の雇用は内閣府『平成14年度年次経済財政報告』より得た。
 米国全体の雇用はThe Chairman of the Council of Economic Advisors, 2003 Economic Report of the Presidentより得た民間雇用の総計。

日本企業の海外生産活動の状況

- 日本企業の海外生産活動は1980年代後半の円高以降急速に拡大した。今日では製造業を営む日系現地法人の売上高は63兆円(2000年度)と、日本の財輸出総額を上回り、海外での雇用も290万人(1998年)と製造業国内雇用(工業統計表ベース)の4分の1に達している。特に電機と輸送機器ではこの比は約5割。
- 米国と比較すると海外生産の規模はほとんど同じだが、対内直接投資は日本のほうが格段に少ない。
- 電機と輸送機器産業では国内での雇用創出は確かに減少しているように思われる。

図表1. 輸出と海外生産の産業構成: 2000年

外側の円: 海外生産56.2兆円の構成 (%)



対外直接投資の何が問題か その1

- 直接投資が投資母国に与える経済効果に関する標準的な議論(完全競争、小国、外部効果なし、所有権確立等を前提)
 - 企業が得る利益 > 失われる労働所得
- ただし、産業調整や分配上の問題は有りうる(地方の生産労働者や土地所有者が一番損をする)
- 有効需要への影響
 - 逆輸入・輸入代替・国内設備投資の停滞
 - 資本財・中間財の輸出促進
- 一方、生産工程の細分化(フラグメンテーション)や委託生産は日本企業の生産性を高めると考えられる。
- 日本の東京化
 - 本社機能のみが日本に残ると日本の地方が取り残される可能性がある

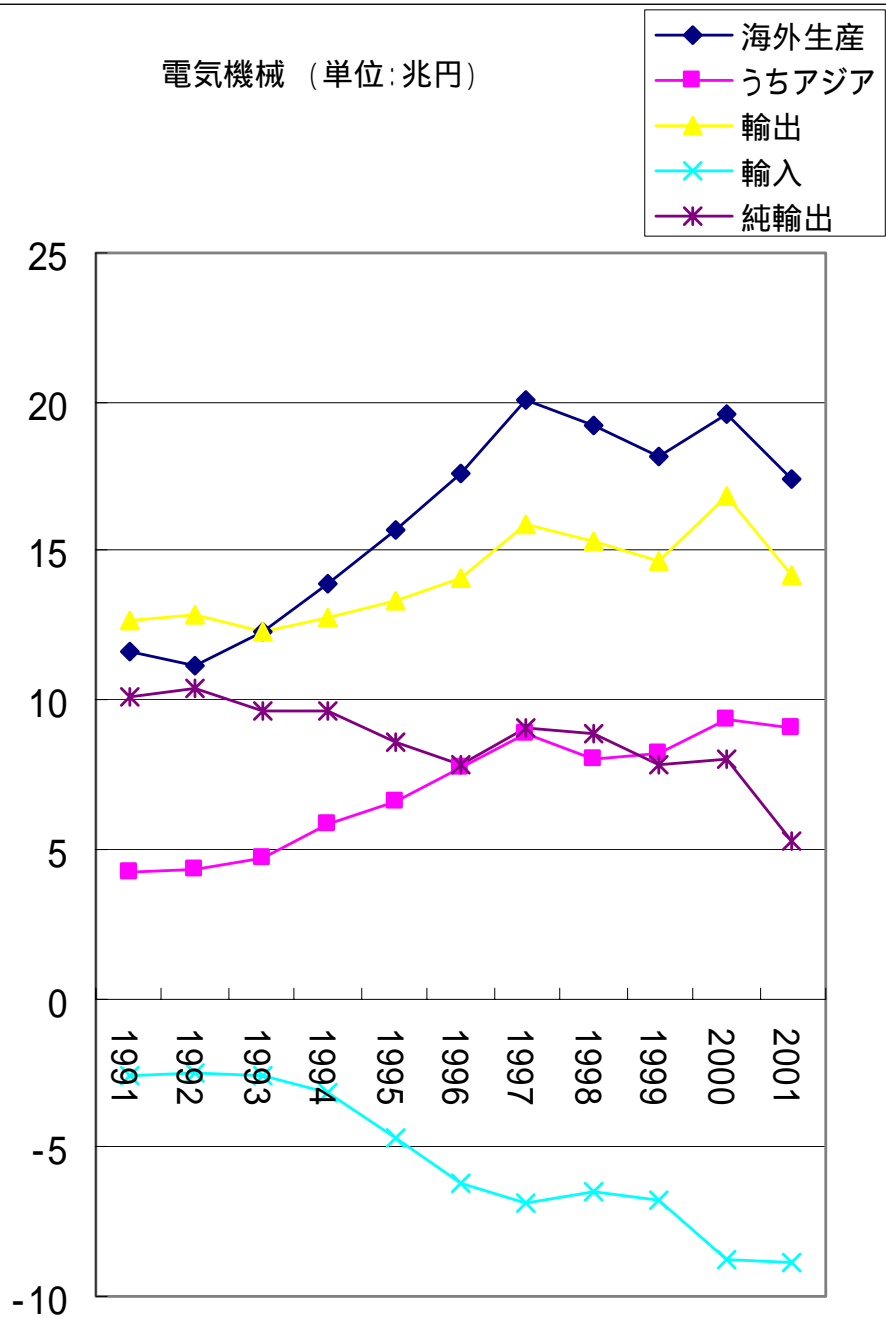
対外直接投資の何が問題か その2

代表的輸出産業の海外移転は日本を窮乏化させる可能性がある。

窮乏化を生み出す悪条件

1. 日本産業の高い世界市場占有率(他国企業から市場を奪取できず、また値崩れの利益は世界に拡散)と企業間の熾烈な競争(大国のケース、又は世界ぐるみでの中国移転による交易条件の悪化)
2. 輸出指向型直接投資
3. 代表的輸出産業が海外移転することの意味
代わりとなる輸出産業は何か
4. 知的所有権の侵害
5. 産業集積の利益

電気機械 (単位:兆円)



- 対外直接投資による窮乏化は起きているか
確かに低労働コストの割にはアジアでそれほど儲かっていない

対外直接投資残高2002年末： 36.5兆円

直接投資収益受取2002年： 2.1兆円(ほとんどは北米)

地方での雇用、生産労働者需要

交易条件は必ずしも顕著に悪化していない



対日直接投資は何をもたらすか 外資系企業の生産性は高い

- 製造業企業に関する大規模なデータを用いた実証研究によれば、外資系企業の生産性は5-10%高い。
- また対日M&A投資先企業の生産性は投資後、改善している。
- 94 - 98年に製造業を営む外資系企業の生産は9兆円拡大したが、そのほとんどは対日M&Aに起因する。
- 外資系企業の収益性は日本企業より高く、より活発に設備投資を行っている。
- 従って、対日投資により経営資源の流出ではなく流入が起きている。

対日直接投資の労働市場への影響

- マクロ的には労働需要を拡大し実質賃金率を上昇させる効果が期待できる。
- 外資系企業では賃金率が高い。
- 国内M&Aと比較して、対日M&Aの投資先企業では、雇用の減少率大きい。
- 日本企業と比較して外資系企業は雇用調整速度が高い。
- 外資系企業の雇用はどの産業でどれほど増えたか、外資系企業では派遣・下請従業員、臨時雇用の割合が高いか？(現在内閣府で事業所・企業統計調査個票を特別集計中)

必要な政策：内外企業にとって日本を魅力的な投資先にする必要

- 内国民待遇は達成されている。参入障壁が深刻。医療サービス、教育、公益事業等における参入障壁の撤廃、大規模な民営化
- M&A分野でも内外無差別原則を実現
外国会社の株式を日本会社の株式と交換する場合にも課税繰延を認める。
- 日本は対内直接投資が不要だという誤解を解く
 - 誤解1：貯蓄過剰の日本には資本流入は必要無い
 - 誤解2：対日投資は技術流出を招く
 - 誤解3：対日投資の大部分は「ハゲタカ」ファンド
件数ベースでは、対日M&Aのうちプライベート・エクイティ・ファンドによるM&Aは5%に過ぎない。
 - 誤解4：対日直接投資は地方を潤さない
雇用の半分以上は東京・神奈川以外で生み出されている

必要な政策 2

- **法人税の引き下げ**
IRSの多国籍企業が支払った実効法人税率データによれば、日本はまだ実効法人税率が世界で最も高い国の一つ
- **外国市場を日本製品に対して開かせておく**
自由貿易協定におけるシークエンスの重要性
途上国に対して日本は何を与えられるか
- **中央政府と比べて企業誘致に真剣である地方自治体の権限を強化する**

3 . 国際貿易と生産要素市場

3. 国際貿易と生産要素市場

- 国際貿易は生産要素移動と同じように要素価格を均等化させる効果を持つ。
- 日本は米国等と比較して、より物的・人的資本蓄積に依存した経済成長を達成してきた。要素価格均等化メカニズムが働くか否かは、このような成長パターンの持続可能性を左右する可能性がある。

成長会計の日米比較

Table 2.2 Sources of Economic Growth: US-Japan Comparison

Table 2.2 Panel A. The Result of Growth Accounting for the US Economy by Jorgenson et al (2002): 1973-2000

(Annual Rate, %)

	Real GDP Growth	Man-hour growth	Labor productivity (GDP/man-hour) growth	TFP growth	Contribution of labor quality growth	Contribution of capital services/man-hour growth		
						Sub-total	Contribution of IT capital	Contribution of non-IT capital
a	b	c=a-b	d=c-e-f	e	f=g+h	g	h	
1973-1995	2.78%	1.44%	1.33%	0.26%	0.27%	0.80%	0.37%	0.43%
1995-2000	4.07%	1.99%	2.07%	0.62%	0.21%	1.24%	0.87%	0.37%

Jorgenson et al. (2002)

Table 2.2 Panel B. The Result of Growth Accounting for the Japanese Economy: 1973-1998

(annual rate, %)

	Real GDP Growth	Man-hour growth	Labor productivity (GDP/man-hour) growth	TFP growth	Contribution of labor quality growth	Contribution of capital services/man-hour growth		
						Sub-total	Contribution of IT capital	Contribution of non-IT capital
a	b	c=a-b	d=c-e-f	e	f=g+h	g	h	
1973-83	3.56%	1.53%	2.03%	-0.30%	0.65%	1.68%	0.16%	1.52%
1983-91	3.94%	1.79%	2.15%	0.40%	0.46%	1.29%	0.37%	0.92%
1991-98	1.25%	-0.08%	1.34%	0.03%	0.21%	1.10%	0.33%	0.76%
						1995-98	0.52%	0.63%

Calculated from JIP database.

Figure 3.1.A Commodity Composition of Japan's Exports: 1980-2000

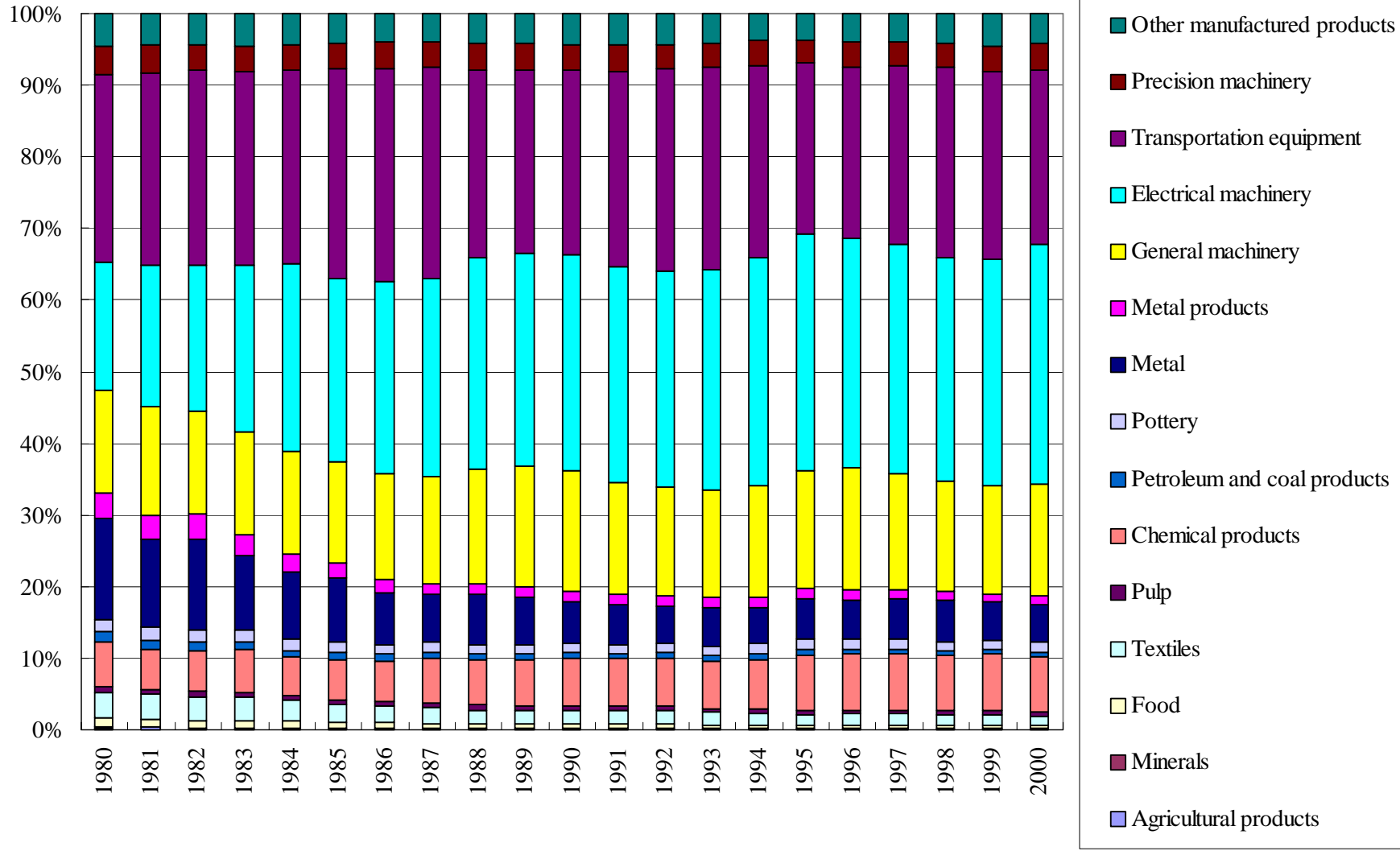


Figure 3.1.B Commodity Composition of Japan's Imports: 1980-2000

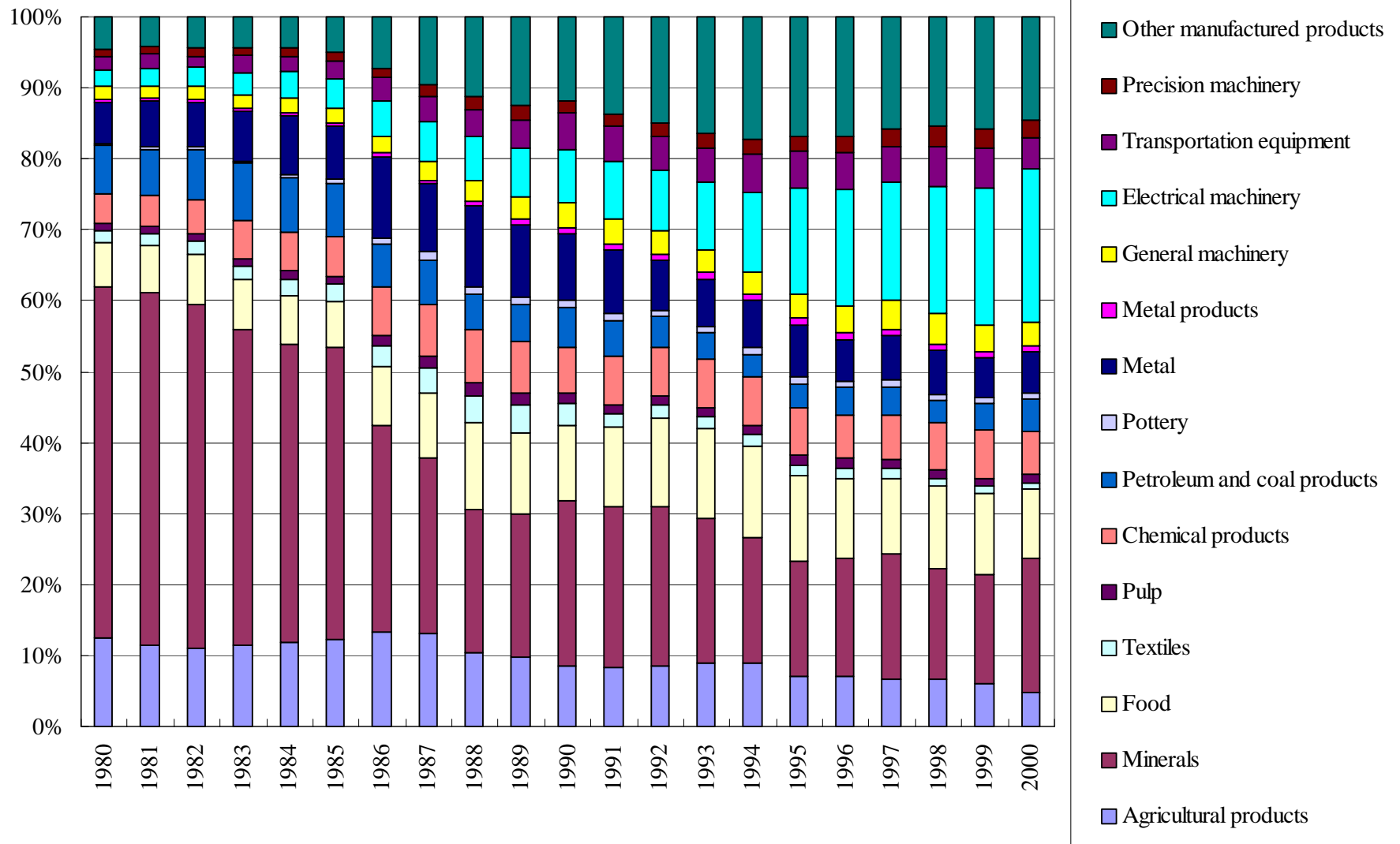
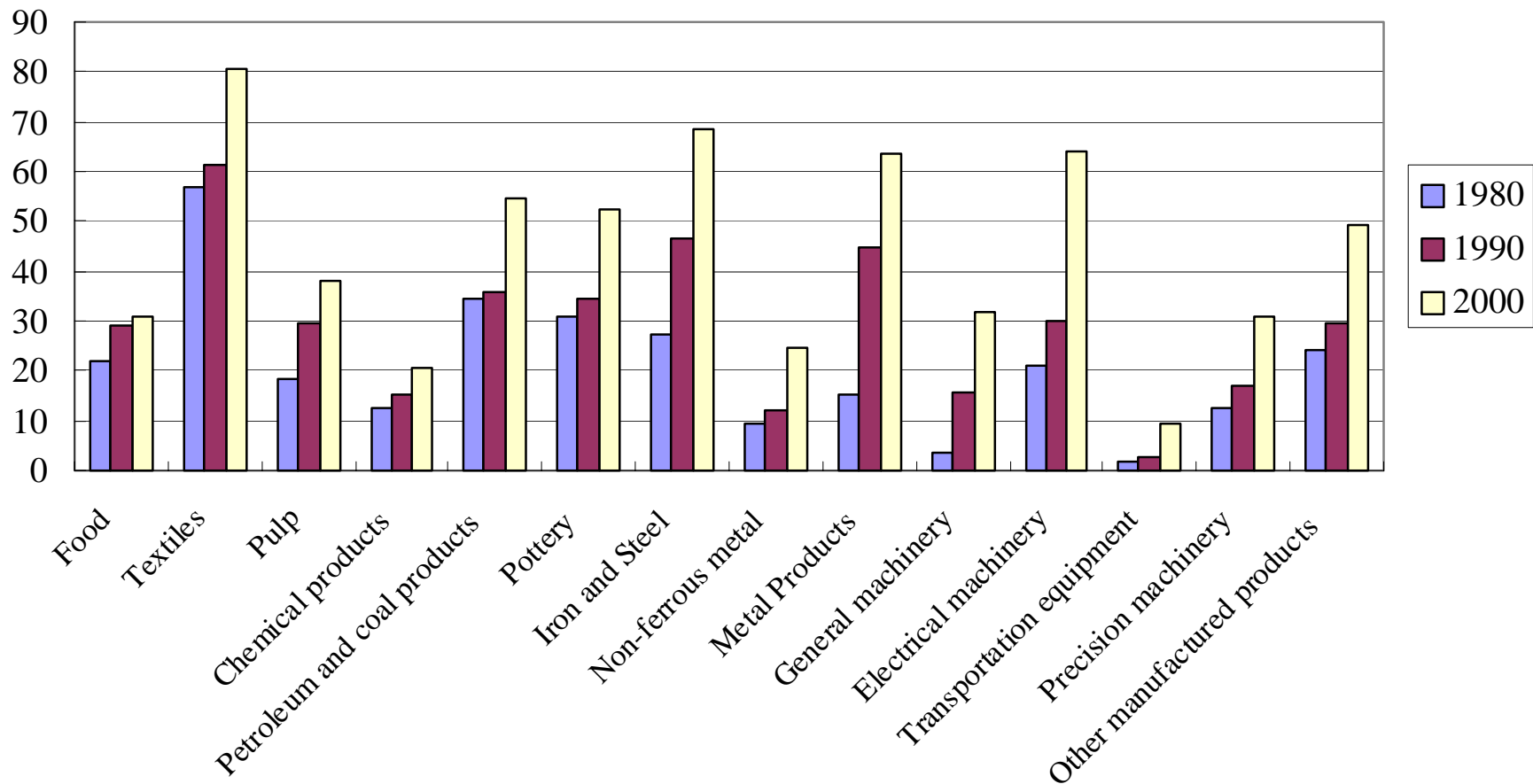


Figure 3.2.B Share of Nine East Asian Economies in Japan's Imports



90年代に東アジアからの製品輸入が拡大。米国で80年代に起きたことに匹敵。

Table 3.1 Japan's Share of Imports and Manufacturing Sector in GDP, Employment, and Gross Value Added

	Imports of goods and services/GDP	Imports of manufactured products (CIF)/GDP	Imports of services/GDP	Share of manufacturing sector in total GDP	Share of manufacturing sector in total employed persons	Imports of manufactured products (CIF)/gross value added by manufacturing sector
1980	15.1%	5.1%	1.7%	29.2%	26.2%	17.4%
1985	11.3%	4.5%	1.6%	29.5%	26.5%	15.2%
1990	9.4%	5.3%	1.6%	28.2%	26.2%	18.7%
1995	7.8%	5.0%	1.3%	24.7%	24.7%	20.3%
2000	9.5%	6.3%	1.3%	23.4%	22.3%	26.7%

Notes: Official SNA statistics for the year 2000 are based on 1993 SNA. For years before 1989, only statistics based on 1968 SNA are available. In order to make long-term comparisons we derived values for 2000 by an extrapolation based on values of 1995 and the 1995-2000 growth rate of each variable reported in SNA statistics based on 1993 SNA.

Sources: Economic and Social Research Institute, Cabinet Office, Government of Japan, *Annual Report on National Accounts 2002*, Economic Planning Agency, Government of Japan, *Annual Report on National Accounts 2000*.

Factor content in Japan's trade in year t ($t=1980, 1990, 2000$) is calculated by

$$\mathbf{X}t = \mathbf{D}(\mathbf{I} - \mathbf{A})^{-1} \mathbf{T}t$$

where

$\mathbf{X}t = [xk, t]$: the total contents of factor k in Japan's trade of year t .

$\mathbf{D} = [dk, j]$: the quantity of primary factor k directly used per unit of output in industry j in year 1990.

\mathbf{A} : the input-output matrix of year 1990.

$\mathbf{T}t$: the net-export vector of year t in 1990 prices.

Table 2.4 Changes in Factor Contents (Direct plus Indirect) of Net Exports for Japan's Manufacturing Sector: 1980-2000,

Production labor				
	1980 - 90		1990 - 2000	
World total	10,403	(0.1%)	-264,073	(-3.4%)
China and Hong Ko	-40,272	(-0.5%)	-281,049	(-3.6%)
NIEs 3	15,614	(0.2%)	74,152	(1.0%)
ASEAN 4	-320	(-0.0%)	-39,603	(-0.5%)
US	130,101	(1.7%)	47,335	(0.6%)
EU	40,513	(0.5%)	3,651	(0.0%)
Other economies	-135,234	(-1.8%)	-68,557	(-0.9%)

Notes: Data in parentheses denote the ratio of factor contents to total input in Japan's manufacturing sector in 1990. The data on total input are taken from the Ministry of

Non-production labor

Non-production labor				
		Net exports		
		1980-90		1990-2000
World total		94,244	(2.7%)	-5,505 (-0.2%)
China and Hong		-3,098	(-0.1%)	-30,721 (-0.9%)
NIEs 3		25,332	(0.7%)	23,641 (0.7%)
ASEAN 4		8,953	(0.3%)	-16,986 (-0.5%)
US		73,868	(2.1%)	29,205 (0.8%)
EU		37,347	(1.1%)	8,286 (0.2%)
Other economie		-48,157	(-1.4%)	-18,929 (-0.5%)
Capital stock (million yen, in 1990 prices)				
		Net exports		
		1980-90		1990-2000
World total		189,751	(0.3%)	906,001 (1.6%)
China and Hong		-157,936	(-0.3%)	-53,436 (-0.1%)
NIEs 3		405,001	(0.7%)	602,262 (1.1%)
ASEAN 4		146,286	(0.3%)	-176,004 (-0.3%)
US		1,246,611	(2.2%)	590,880 (1.1%)
EU		469,492	(0.8%)	128,781 (0.2%)
Other economie		-1,919,705	(-3.5%)	-186,482 (-0.3%)

- しかし、貿易に体化された生産要素の変化よりもずっと大きな要素賦存・投入の変化が起きた。
- 要素投入の変化は産業構造の変化ではなく産業内の集約度変化で吸収された。

Decomposition of Physical and Human Capital Deepening

We decompose the increase in the share of non-production workers (skilled workers) in all manufacturing industry as well as the Japanese economy as a whole into $(\Delta \frac{E_{n,t+1}}{E_{t+1}})$

the increase in the share of non-production workers within each industry (within effect)

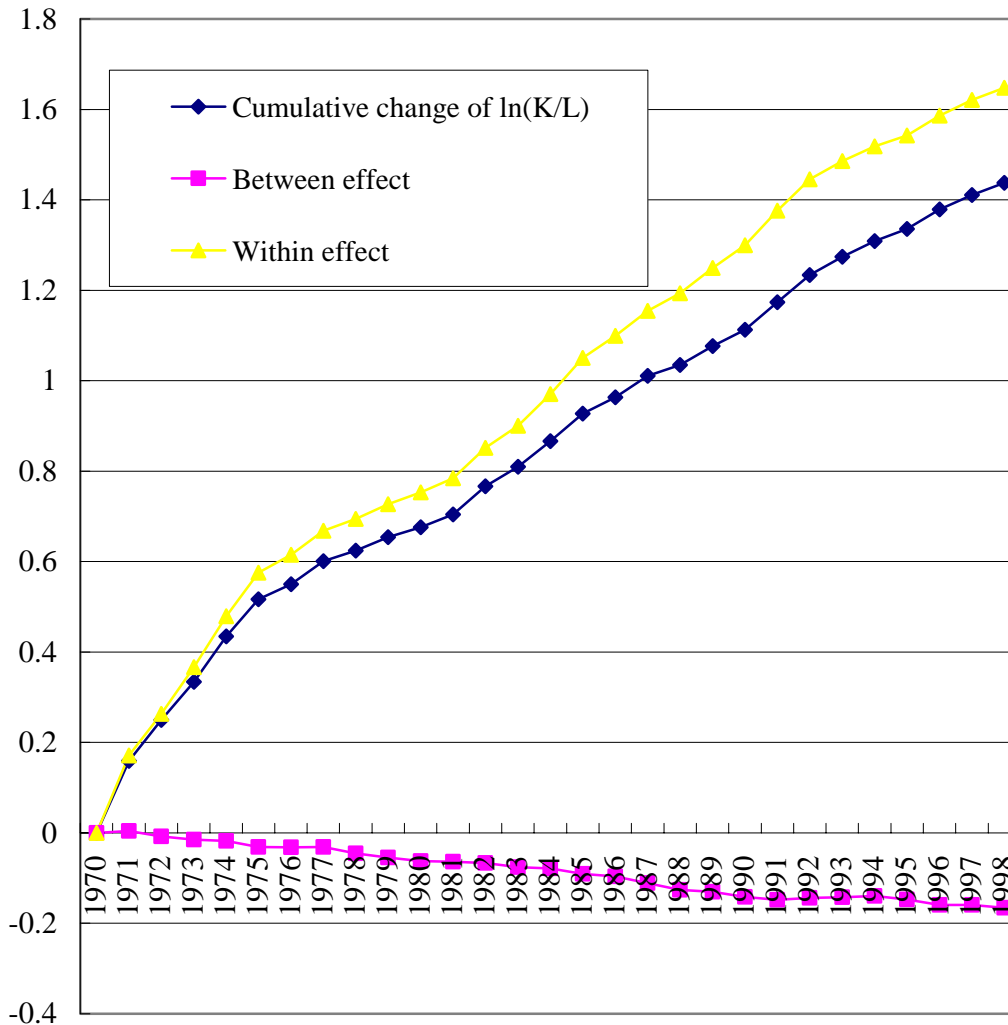
$$\sum_i \left(\frac{E_{ni,t+1}}{E_{i,t+1}} - \frac{E_{ni,t}}{E_{i,t}} \right) * \left(\left(\frac{E_{i,t+1}}{E_{t+1}} + \frac{E_{i,t}}{E_t} \right) / 2 \right)$$

and the reallocation between industries (between effect)

$$\sum_i \left(\frac{E_{i,t+1}}{E_{t+1}} - \frac{E_{i,t}}{E_t} \right) * \left(\left(\frac{E_{ni,t+1}}{E_{i,t+1}} + \frac{E_{ni,t}}{E_{i,t}} \right) / 2 \right)$$

	1980-90	1990-2000	1980-2000
Table 2.5, Panel B Decomposition of the growth of the share of skilled workers: Manufacturing sector (annual rate, %)			
Growth rate of the share	0.65	0.97	0.84
Between effect	0.29	0.25	0.27
Within effect	0.36	0.71	0.57
“Skilled workers” are persons whose profession is classified either as professional and technical or as managerial and administrative.			

Figure 2.5 Decomposition of Capital-Labor Ratio Growth: Non-service Sector, 1970-98



何が各産業内での要素集約度変化を引き起こしたか

仮説1．要素価格比の変化： 玄田

仮説2．資本・非生産労働投入を拡大するような技術進歩

仮説3．垂直的な分業をともなう産業内貿易

日本企業の生産移転を背景に産業内貿易が拡大：日中貿易の場合

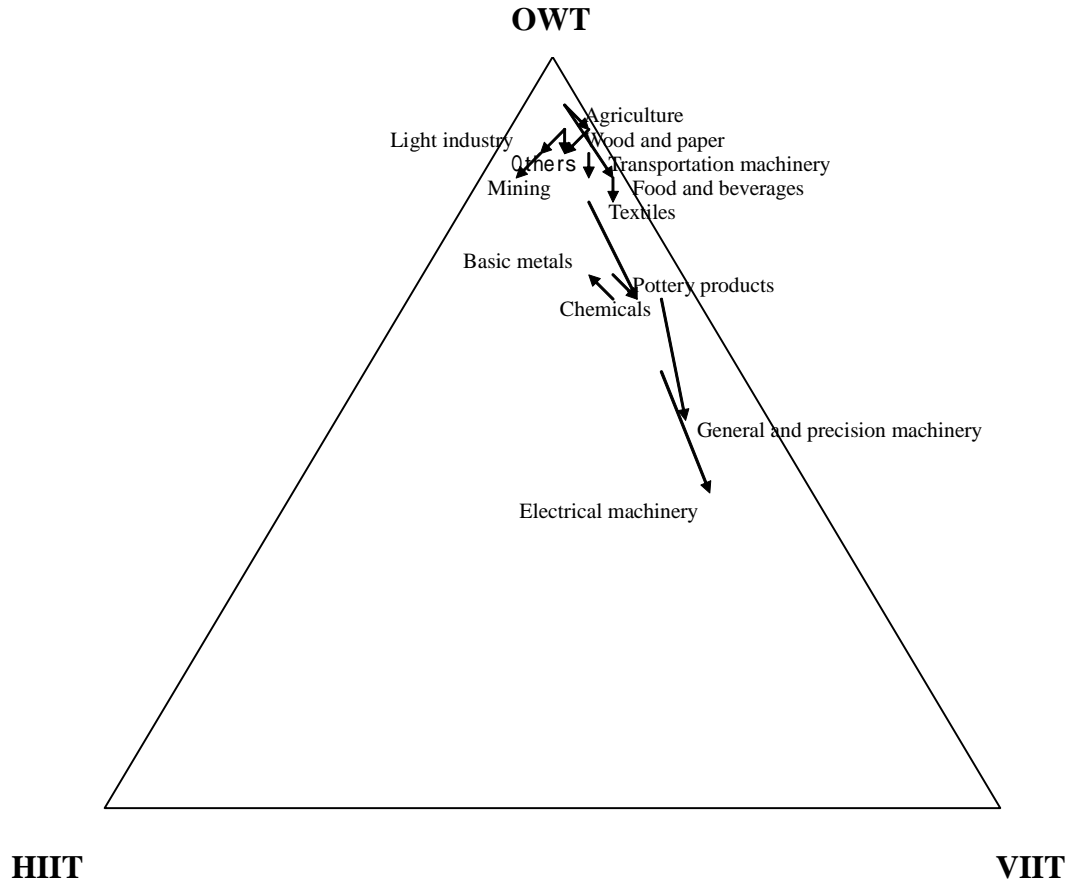
Table 3.2 Japan's Trade in Electrical Machinery and Office Machines with China and Hong Kong in 1999

(billion yen)

Commodity classification, SITC R3	Japan's exports to China and Hong Kong (f.o.b. base)	Japan's imports from China and Hong Kong (f.o.b. base)	Japan's net-exports to China and Hong Kong
75-Office machines & automatic data processing machines	275.3	231.0	44.2
751-Office machines	173.5	117.2	56.3
752-Automatic data processing machines & units	59.0	83.7	-24.8
759-Parts of and accessories suitable for 751-752	42.8	30.1	12.7
76-Telecommunications & sound recording apparatus	316.7	302.5	14.1
761-Television receivers	37.5	39.5	-2.1
762-Radio-broadcast receivers	6.8	41.2	-34.4
763-Gramophones, dictating, sound recorders etc	n.a.	n.a.	n.a.
764-Telecommunications equipment and parts	272.4	221.8	50.6
77-Electrical machinery, apparatus & appliance	1377.9	454.2	923.7
771-Electric power machinery and parts thereof	65.7	122.7	-57.0
772-Elect.app.such as switches, relays, fuses, pl	235.2	65.9	169.4
773-Equipment for distributing electricity	48.7	63.9	-15.2
774-Electric apparatus for medical purposes	12.9	1.2	11.7
775-Household type, elect.& non-electrical equipment	14.1	52.3	-38.3
776-Thermionic, cold & photo-cathode valves, tubes	724.0	85.7	638.3
778-Electrical machinery and apparatus, n.e.s.	277.3	62.6	214.8
Total	1969.8	987.7	982.1

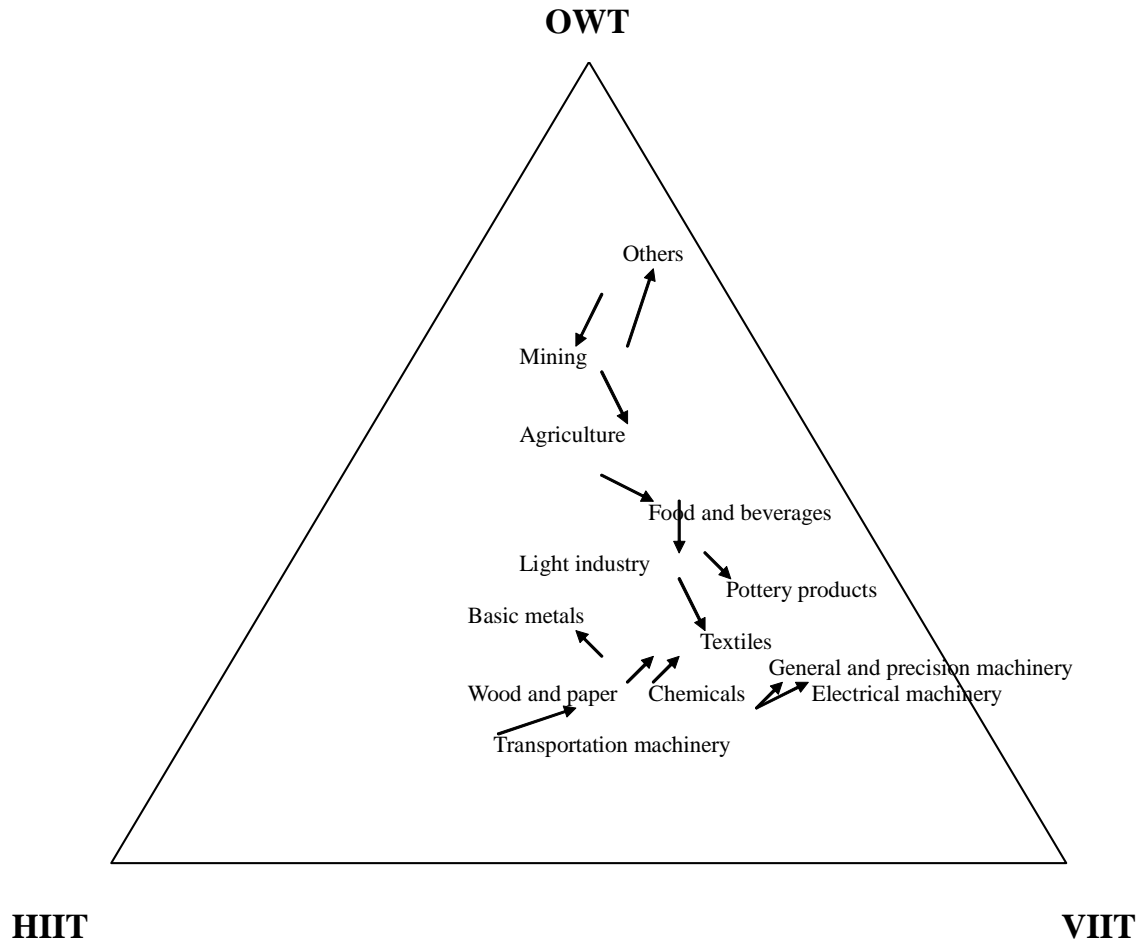
Source: Statistics Canada, *World Trade Analyzer 2001*.

Figure 2-2. The Share of the Three Trade Types in Intra-East Asian Trade: by Industry, 1996 and 2000



Source: Authors' calculation based on PC-TAS.

Figure 2-1. The Share of the Three Trade Types in Intra-EU Trade: by Industry, 1996 and 2000



Source: Authors' calculation based on PC-TAS.

実証分析の結果

- 詳細な産業レベルのパネルデータを使った実証分析では、産業内貿易や海外での委託生産が拡大した産業ほど国内で資本・非生産労働集約的な生産に移行していることを支持する、十分な証拠は得られなかった。
- EUと比較すると東アジアでは機械産業(輸送機械を除く)以外の産業内貿易が極めて遅れている。